

### 第35回資金管理業務諮問委員会 議事概要

1. 日時：平成22年5月18日（火）13時～15時10分
2. 場所：公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者：永田委員長、鬼沢委員、小島委員、酒井委員、辰巳委員、細田委員、米澤委員
4. 議題：①情報システムのあり方の検討について
5. 議事概要

※本議事概要では、委員の主な意見及び決定事項を中心にまとめており、資料に関連する質疑については、後日、議事録を公表する。

#### (1) 議題①について

情報システムのあり方の検討について、事務局から資料3を使用して説明。委員からは次の意見があり、本議題は、平成22年6月15日開催の第36回資金管理業務諮問委員会において再度審議することとなった。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 今回計画している情報システムの改善策は、将来発生する可能性がある業務拡張にも対応できるものなのか。
- 今回の改善策は、現在の業務を問題なく遂行するためのものであり、将来発生する可能性がある業務拡張には対応するものではない。
- 現在の機能を満たす必要最低限の改善策である。
- 性能対策を実施するとその後10年は性能維持できるとのことであるが、実施から5年程経過したところで情報システムの性能を確認することが必要。
  
- 今回の情報システムの性能対策は、その費用に特定再資源化預託金等を充てるほど大規模なものなのか。
- ハードウェアとデータベースを全て入れ替えるものであるので大規模なものといえる。よって、第6回合同会議<sup>(\*)</sup>で示された費用負担の基本的考え方で示された「情報システムの大規模な改造」に該当し、本性能対策に要する費用は、特定再資源化預託金等を充てる対象となる。
  
- 今回の改善策の実施においては、性能対策費用とメンテナンス対応費用が混在するが、ハードウェア関連費用の全額が性能対策費用ではなくメンテナンス対応費用として区分されているが、性能対策のためのハードウェア関連費用もあるのではないか。

- 第6回合同会議<sup>(\*)</sup>で示された費用負担の基本的考え方に則って、性能対策費用とメンテナンス対応費用に区分した。この考え方において、ハードウェア関連費用はメンテナンス対応費用として整理されている。よって、今回の性能対策におけるハードウェア関連費用は、メンテナンス対応費用として整理し、特定再資源化預託金等充当の対象外とした。
- これは、改善策の実施において混在する性能対策費用とメンテナンス対応費用をわかりやすく区分・整理したものであり、メンテナンス対応費用は特定再資源化預託金等充当の対象外として区分すべきとする平成21年12月開催の第32回資金管理業務諮問委員会における議論を反映させたもの。

(\*) 平成16年3月17日開催の第6回産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG及び中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会自動車リサイクル専門委員会の合同会議

- 性能対策費用への特定再資源化預託金等の充当については、各年度において資金管理業務諮問委員会で審議するという事か。
- 性能対策費用の総額は入札によって確定するが、性能対策の実施期間は3年程度を要する。よって、実施期間の各年度において、当該年度の特定再資源化預託金等の充当について審議していただく。
- 資料3について、消費者が見てわかるようにするという観点から改めて整理した資料を次回の第36回資金管理業務諮問委員会（平成22年6月15日開催）に提示してほしい。
- 情報システムの性能対策の実施、性能対策の方法及び性能対策費用の資金管理法・情報管理センター負担部分への特定再資源化預託金等の充当については承認の方向であるが、本議題は、継続審議とし、改めて整理した資料にて次回資金管理業務諮問委員会において再度審議する。
- 本議題については、本日の資料をわかりやすく改めて整理したうえで、次回資金管理業務諮問委員会において再度審議に付す。

以上